

(5) 東海



東海地域では、景気は悪化しつつある。

- ・ 鉱工業生産は大幅に減少している。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は弱含んでいる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

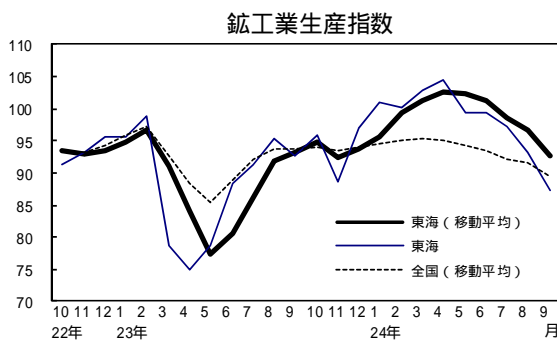
前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年8月)	今回(平成24年11月)	
景況判断	回復に一服感	悪化しつつある	
鉱工業生産	おおむね横ばい	大幅に減少	
個人消費	緩やかな増加傾向	弱い動き	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	
雇用情勢	改善	弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

輸送機械は、エコカー補助金による政策効果の一巡や世界景気の減速等から減少した。一般機械は、主力の金属工作機械が、世界景気の減速や円高等の要因から海外向けを中心に低調だったこと等から減少した。電子部品・デバイス、スマートフォン向けの生産は堅調だった一方、市況の影響等もあって全体では減少した。プラスチック製品は、エコカー補助金による政策効果の一巡等を背景に、自動車向け製品が減少した。化学は、主力の医薬品等が増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	37.5	2.6	12.5	14.1	25.6
一般機械	12.7	0.1	7.8	6.8	1.2
電子部品・デバイス	6.8	3.9	16.7	10.5	10.2
プラスチック製品	5.4	4.8	8.2	8.6	0.5
化学	5.0	1.9	1.5	0.6	7.1
鉱工業	100.0	0.3	8.4	8.1	4.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

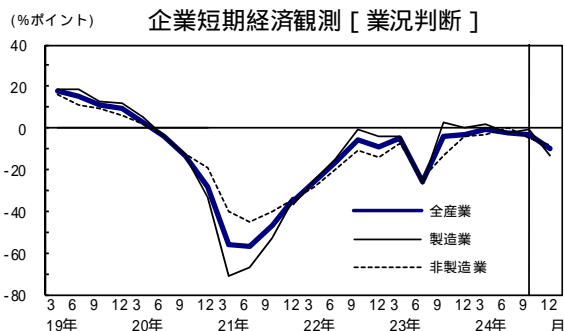
2. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

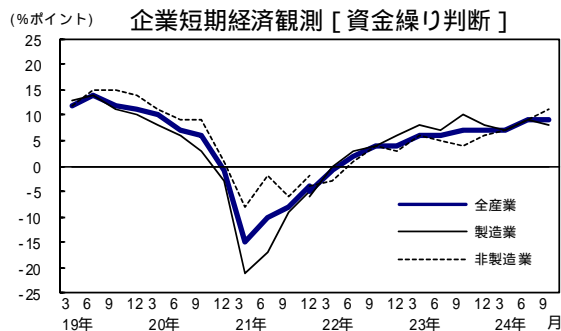
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

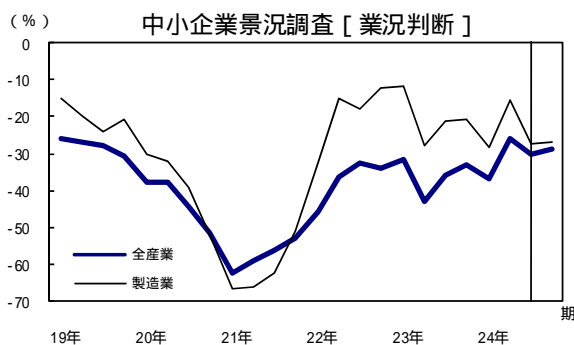
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年12月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

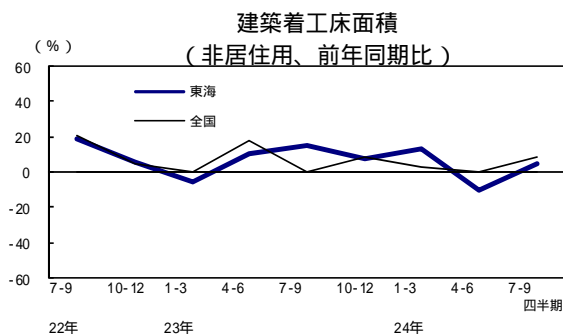
「中国への設備輸出の延期、キャンセル、日本からの輸出部品の減少による物量減が拡大している。中国での輸入申告や営業許可の遅延も響いている(輸送業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	2.2	19.2 (18.9)
製造業	4.6	24.4 (23.3)
非製造業	0.2	14.8 (15.2)

(備考) 1.()は前回(6月)調査結果。
2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

大型小売店販売額

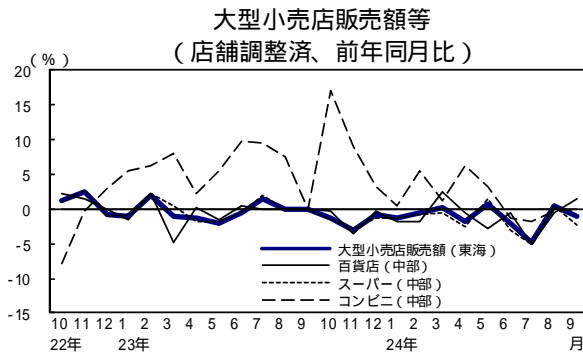
大型小売店販売額は、前年同期比で1.9%減、前期比で0.1%減となった。

百貨店は、7月は、上旬の気温低下で夏物商材が振るわなかったことやセール分散化による影響等から前年を下回った。8月は、気温上昇により秋物衣料が振るわなかったこと等から前年を下回った。9月は、催事効果等から前年を上回った。

スーパーは、気温の上昇で夏物商材が好調だった一方、残暑の影響で衣料品等の秋物商材が振るわなかったこと等から、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「日中、日韓関係の悪化で、海外旅行は急激に落ち込んでいる(旅行代理店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	1.6	0.5	1.0	1.9
百貨店(*1)	1.3	0.3	1.3	1.8
スーパー(*1)	1.9	0.9	1.4	2.3
大型小売店(*2)	0.9	0.2	0.8	1.5
(季節調整値)(*3)	(0.4)	(0.3)	(2.0)	(0.1)
乗用車(*4)	26.1	48.5	73.2	16.1
(季節調整値)(*4)	(6.7)	(27.0)	(2.8)	(10.5)

(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)、7-9月は速報値。

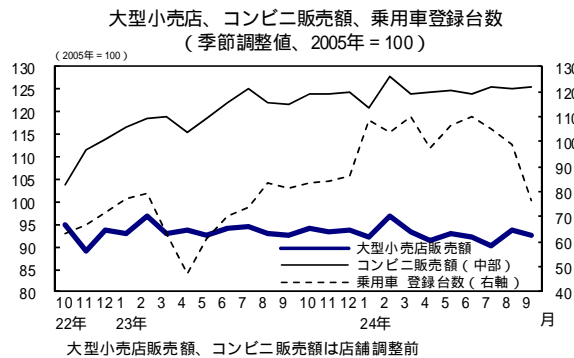
百貨店、スーパーは、中部の確報値

2. 店舗調整前、前年同期比(%) 7-9月は速報値

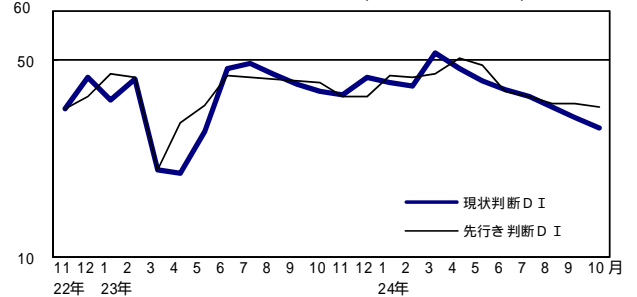
3. 店舗調整前、前期比(%) 7-9月は速報値

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段: 前年同期比、下段: 前期比、%)



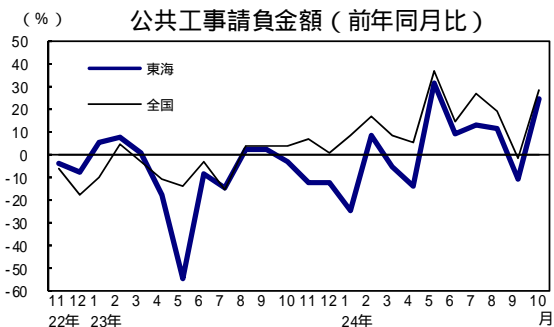
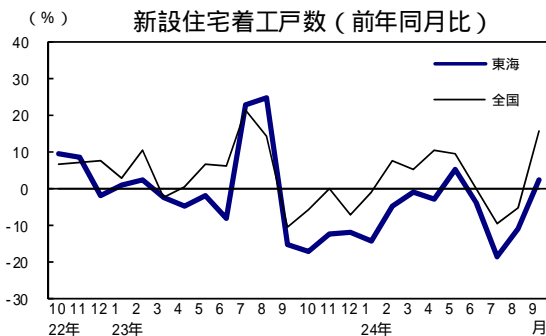
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

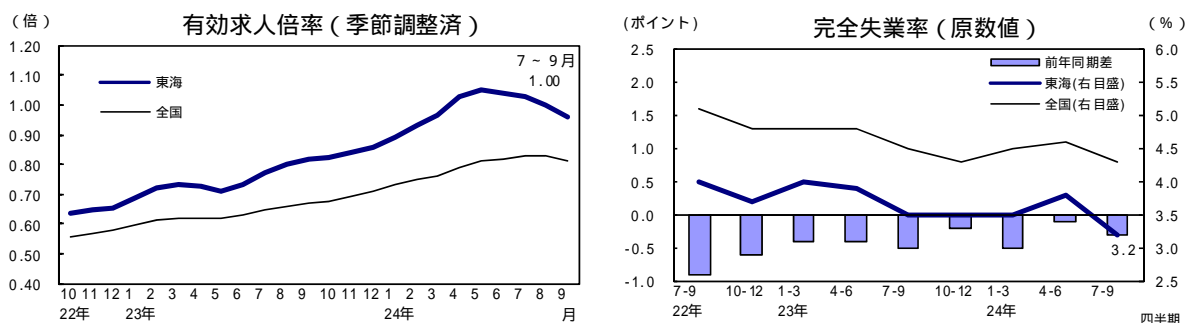


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は弱含んでいる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

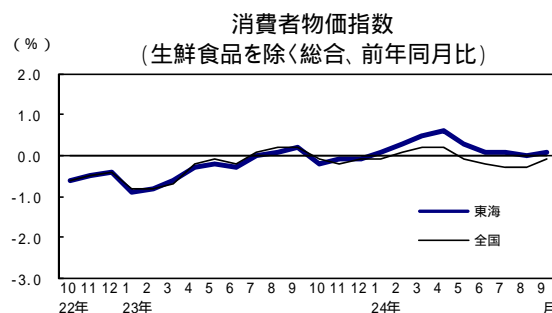
「新規求人数は、医療・福祉関係で依然として増加し、派遣会社からの求人も増加している。一方、自動車部品等を製造している事業所では、海外の諸事情等の影響を受けて、取引先からの受注が減少し、新規求人には慎重になっている事業所が多くなっている(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月	24年10月
倒産件数	343	361	383	371	99
(前年比)	1.5	14.9	6.6	19.7	13.2
負債総額	1,006	679	805	551	175
(前年比)	79.7	15.9	28.9	5.8	15.1



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・中国との尖閣諸島問題により、自動車関連の販売量が減少し、受注量・販売量が悪化している(パルプ・紙・紙加工品製造業)

<先行き>

・景気は底入れし、わずかながらではあるが受注量は増加の兆しがある。ただし、受注価格は厳しい(一般機械器具製造業)

